

香川の  
土地改良

みどり  
水土ネット香川

発行所

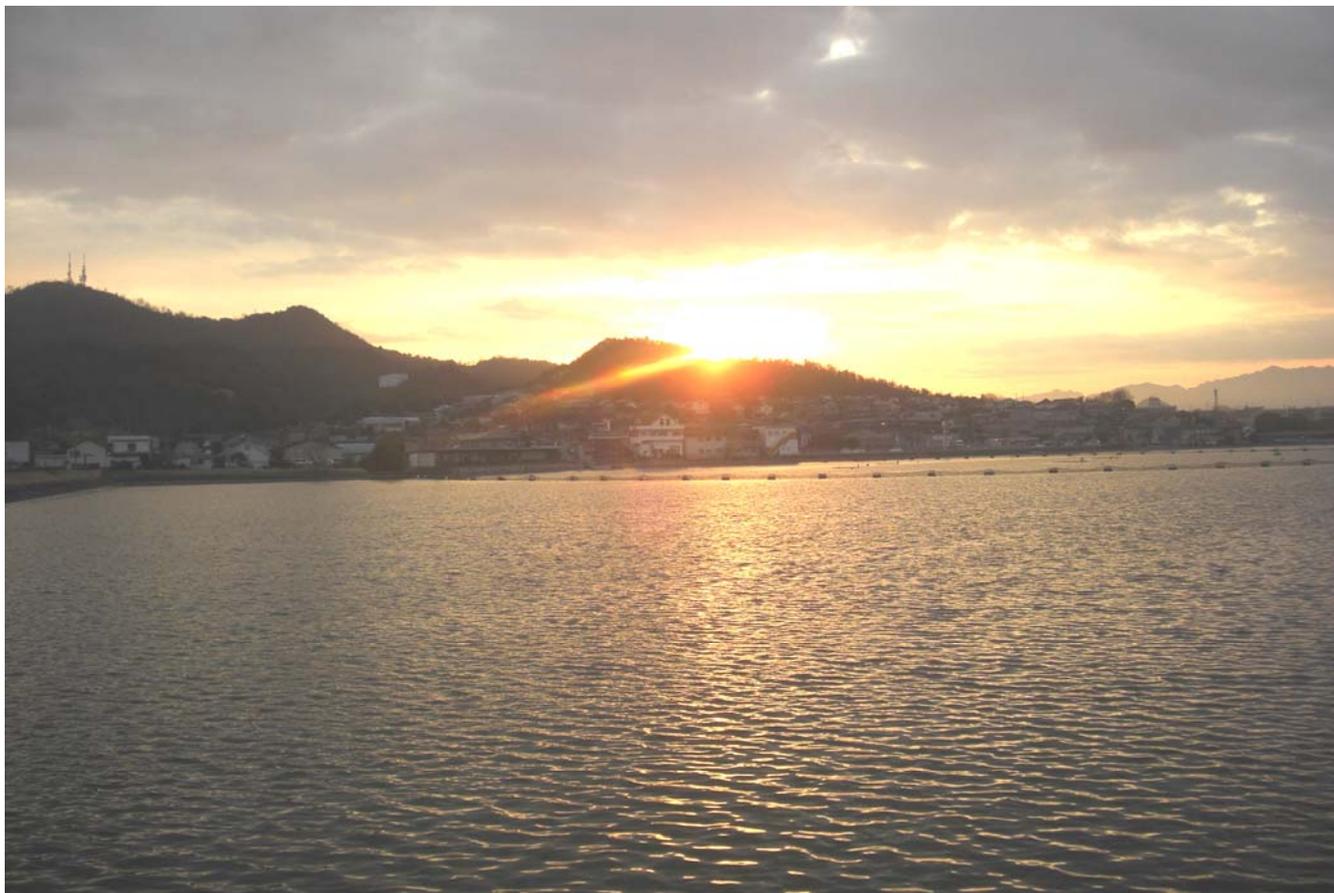
香川県土地改良事業団体連合会

高松市番町 2 丁目 4 番 27-301 号

TEL (087) 822-0303

FAX (087) 851-1787

<http://www.midorinet-kagawa.or.jp/>



久米池から見る初日の出（高松市）

## 目 次

1. 新年のご挨拶  
香川県土地改良事業団体連合会 会長 大山 茂樹 .....2  
四国土地改良調査管理事務所 所長 森 丈久 .....3  
香川用水土器川沿岸農業水利事業所 所長 本間 新哉 .....4  
香川県農政水産部 部長 川池 秀文 .....5  
香川県農政水産部土地改良課 課長 飯間 勝 .....6  
香川県農政水産部農村整備課 課長 池田 正志 .....7
2. 平成 24 年度第 2 回監事会開催／第 153 回理事会開催 .....8
3. 平成 24 年度換地計画実務研修会開催／会と催し .....9
4. 「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展 2012 入賞作品決定 .....10



## 新年のご挨拶

香川県土地改良事業団体連合会

会長 大山 茂 樹

新年明けましておめでとうございます。

会員各位をはじめ、農業農村整備事業関係の皆様方におかれましては、健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

また、平素、本会の運営に対しまして、格別のご支援、ご協力を賜っておりますことに衷心より厚くお礼申し上げます。

近年、農業者の減少や高齢化の進行、担い手不足の深刻化、農村の活力低下など農業農村を取り巻く情勢は一段と厳しくなっております。このような中、国は、昨年 3 月に我が国農業の体質強化と東日本大震災からの復旧・復興等に対応する新たな施策の展開に資するため、今後 5 年間の土地改良事業の実施目標と事業量を定めた「土地改良長期計画」を策定いたしました。本会におきましては、会員の皆様方とともに、農業の体質強化に向け、各地域の特性を尊重しつつ、地域のニーズに即した整備を積極的に推進してまいりたいと考えております。

また、総選挙を終え、今後、議論が活発化すると想定される我が国の重要課題である環太平洋経済連携協定(TPP)への参加は、今後の日本農業の命運を左右する大きな問題であり、会員皆様のご意見を踏まえ、慎重に検討する必要があると考えております。

さて、現代社会においては、3 つの危機が忍び寄りつつあると言われております。すなわち食を巡る危機、国土の危機、農村の危機の 3 危機であります。食料の生産、国土の保全、農村社会の維持は、我が国が将来にわたって繁栄し、安定した社会を持続するために不可欠な重要課題であり、その危機に適切に対処することが求められております。とりわけ、食料生産と国土保全の基礎である「水と土」を再生し、将来に向かってその役割が維持向上されるよう創造していくことを通じて、これらの危機に対処する必要があります。また、この危機への対処は、地域における課題の解決を通じて行われることが重要であり、地域の創意工夫のもと、より効果的に実行されることが期待されております。

こうしたことから、社会的共通資本である農業生産基盤を次世代に良好な形で継承していくことは、現代の我々にとっての責務であると考えております。

そこで本会では、各種情報を付加したGIS(地図情報システム)技術を駆使して構築した水土里情報システムを活用し、喫緊の課題である担い手の確保や経営規模の拡大などによる持続可能な力強い農業を実現するため、基本となる人と農地の問題を一体的に解決する「人・農地プラン」の作成をはじめ、農地の担い手への利用集積や耕作放棄地解消対策を支援してまいります。また、農業生産基盤におきましては、施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減を図る戦略的な保全管理のため、農業水利施設や農道の管理台帳の整備、さらにはハザードマップの作成支援など、ため池に係る防災・減災対策にも計画的に取り組み、本県農業の持続的な発展はもとより、次世代への農業生産基盤の良好な形での継承に向けて積極的に支援してまいります。

今後とも、本会の業務を通じて、会員皆様のご期待に応えられますよう、役職員が一丸となり頑張っておりますので、引き続きのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方の一層のご健勝、ご多幸を心からご祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



## 新年のご挨拶

中国四国農政局四国土地改良調査管理事務所

所 長 森 丈 久

新年明けましておめでとうございます。

平成 25 年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様方におかれましては、日頃から香川県内の農業農村整備の推進にご尽力いただき、心より感謝申し上げます。

さて、農林水産省では、昨年 3 月に新しい「土地改良長期計画」を策定しました。新しい土地改良長期計画では、「農を強くする」「国土を守る」「地域を育む」の 3 つの政策課題を掲げ、各種施策を集中的に実施することとしています。「農を強くする」とは、地域全体としての食料生産の体質強化を図るということで、農地の大区画化・汎用化等による農業の体質強化や農地・水等の生産資源の適切な保全管理と有効利用による食料供給力の確保を目標としております。「国土を守る」とは、震災復興、防災・減災力の強化と多面的機能の発揮を図るということで、「被災地域の災害に強い新たな食料供給基地としての再生・復興」、「ハード・ソフト一体となった総合的な災害対策の推進による災害に強い農村社会の形成」、「農地の整備、安定的な水利システムの維持や農村環境の保全等による農業・農村の多面的機能の発揮」を目指していくというものです。「地域を育む」とは、農村の協働力や地域資源の潜在力を活かしたコミュニティの再生を図るということで、「地域の主体性・協働力を活かした地域資源の適切な保全管理・整備」「小水力発電等の自立・分散型エネルギーシステムへの移行と美しい農村環境の再生・創造」を目標としております。特に「国土を守る」という課題につきましては、四国全域において南海トラフ巨大地震の発生が想定されており、香川県農業を支える基幹的な施設である香川用水はもとより、県内に多数存在しますため池の耐震対策が急がれるところです。

現在国では、香川用水において国営造成土地改良施設整備事業を実施中であり、緊急に整備を要する箇所補修等を行っているところです。また、残されて区間につきましても、二期事業に向けた調査を実施しており、農業用水の効率的、安定的な供給に向けて、漏水等の不具合箇所の補修や来るべき大規模地震に対応した耐震補強など施設の整備計画の検討を鋭意進めているところです。

四国土地改良調査管理事務所では、今年も農業農村整備にかかる様々な課題に取り組んで参りますので、会員の皆様方におかれましても引き続きのご支援、ご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

最後に、会員の皆様方のご健勝、ご多幸を心からお祈り申し上げまして、新年のご挨拶といたします。





## 新年のご挨拶

中国四国農政局香川用水土器川沿岸農業水利事業所

所 長 本 間 新 哉

新年あけましておめでとうございます。

平成 25 年の新年を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会長をはじめ香川県土地改良事業団体連合会並びに会員の皆様方には、平素より国営農業用水再編対策事業「香川用水土器川沿岸地区」及び国営造成土地改良施設整備事業「香川用水地区」の事業推進にあたりまして、格段のご支援・ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年は、5 月以降の小雨により早明浦ダムの貯水率が下がり、6 月には 3 年ぶりに香川用水の 1 次取水制限が実施されたものの、幸いにもその後すぐに降雨があり間もなく制限は解除となりました。少雨の期間がありましたが大まかには平年並みの気象となり、香川県の米の作況指数は 101 と概ね平年並みの収量となっております。水管理の重要性を確認する機会となったのではないかと思います。

昨年の海外の動きとしてのロシア、アメリカ、フランス、韓国、中国のトップ選出の動きがありました。「アラブの春」に始まった中東・北アフリカの情勢も考慮すると、新しい世界の波が生まれることを予感させた年といえるでしょう。そして、国内に目を向ければ、昨年末には衆議院議員総選挙が実施され政権交代があり、新たなページが開かれようとしております。一方、TPP の議論や東日本大震災を契機としたエネルギーのあり方等についてはグローバルな視点を含んだ解決が求められる課題として残っており、農業分野にとっても引き続き関心の高いものとなっています。

事業所の視点では、昨年 12 月に発生した中央自動車道の笹子トンネル事故が関心を引く一つとなりました。現時点で最終的な事故原因の究明はなされておられません、仮に施設の老朽化や構造的なものが事故原因に寄与していたとすれば無視できないものであり、早速トンネル水路施設の緊急点検を行い工事の安全確保を図りました。このこともまた、常日頃の施設の維持管理がいかに重要であるかを再認識させるものであり、よりの確な管理が図られる施設改修を図ることの必要性を感じたところです。更に昨年 8 月及び 12 月に公表された「巨大地震の震度分布」や「全国地震予知地図」は防災への意識を強くするものでした。当事業所においても、災害時における国の機関としての対応方針となる「業務継続計画」を昨年末に策定し、防災体制の強化に努めました。

さて、平成 21 年度から実施された「香川用水地区」は、皆様のご理解とご協力を賜り平成 25 年は事業の最終年度を迎えることとなりました。ここまでこれましたのもひとえに皆様のご理解とご協力の賜物であり、この場をお借りし厚くお礼を申し上げますとともに引き続き関係者のご尽力を賜り、無事完了を達成したいと考えております。

そして「香川用水土器川沿岸地区」は、事業の最盛期を迎える年と考えております。平成 20 年度から開始され、事業期間のほぼ中間にあたる平成 24 年度は約 22 億円の予算が確保され工事の大幅な進捗が図られました。現時点では平成 25 年度予算の動向は明らかではありませんが、24 年度に続き 25 年度においても工事に必要な予算が確保され、更なる事業進捗が図られることが期待されており、今年も職員一丸となり職務に当たる所存でございます。

最後になりましたが、貴連合会のますますのご発展と会員皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



## 新年のご挨拶

香川県農政水産部

部長 川池 秀文

平成 24 年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃、大山会長様をはじめ、香川県土地改良事業団体連合会会員の皆様方には、農業農村整備事業の推進はもとより、県政各般にわたり格別のご理解、ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

ご承知のとおり、農業・農村は、県民の食生活に欠かせない農産物の供給だけでなく、県土や自然環境の保全といった多面的機能を有しておりますが、農業者の減少や高齢化に伴い、その低下が懸念されるとともに、国内外の産地間競争の激化や食の安全・安心、食生活の変化への対応など、新たな課題が発生しています。

一方、国際情勢においては、中国やインドをはじめとする新興国の経済成長や地球規模での気象変動等を要因として、中長期的に食糧需給の逼迫が見込まれている中、環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）への交渉参加など、我が国農業への影響も看過できない状態にあります。

国においては、昨年 10 月に「我が国の食と農林漁業の再生のための基本方針・行動計画」が決定され、持続可能な力強い農業の実現、農業の 6 次産業化や成長産業化、流通効率化など、農林漁業の競争力・体質強化のための戦略が示されました。しかしながら、本県のように、耕地面積が狭く、ため池が多く、独特の水利慣行のある地域においては、そのまま適用できるものばかりではありません。

県では、こうした社会情勢の変化を踏まえ、新たな農政の基本指針となる「香川県農業・農村基本計画」を策定し、平成 27 年度を目標に、本県の実情に応じた農業・農村の振興に取り組むことにしています。

この基本計画は、本県農業・農村を取り巻く現状と課題を踏まえ、「県民が安心して暮らせる元気な農業・農村の実現」を基本目標として掲げ、安定した食料生産の推進をめざす「県民の期待に応える食の安定供給」、農業所得の拡大と担い手の確保・育成をめざす「産業として自立できる農業の実現」、過疎化や高齢化が進む農村における活力の再生をめざす「魅力ある農村の振興」の 3 つの基本方針のもと、各種施策を推進するものであります。

厳しい財政事情ではありますが、基本目標の達成に向けて、農業農村整備事業は、その中心的役割を担うものであり、担い手のニーズや地域の特性を生かして生産基盤の整備を行うほか、老朽化により機能低下が著しい農業水利施設の計画的な保全と保全管理体制の拡充、さらに、農村における地域資源や多面的・公益的機能の維持などには、地域住民との協働により積極的に取り組んでまいります。

とりわけ、ため池の安全性の確保は、利水者である農業者だけの問題ではなく、下流域の住民にとっても重要な関心事となっており、東南海・南海地震に備えて、老朽ため池の整備を進めるとともに、ソフト面での対策であるハザードマップの作成や、ため池の耐震診断に取り組むこととしています。

これら事業の円滑な推進において、貴連合会の果たす役割はますます重要になると考えておりますので、今後とも皆様方の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年が希望に満ちた明るい年となりますよう皆様方のますますのご健勝、ご多幸を心から祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



## 新年のご挨拶

香川県農政水産部土地改良課

課長 飯間 勝

明けましておめでとうございます。

平成 25 年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃、大山会長様や組橋副会長様をはじめ、会員の皆様方には、農業農村整備事業の推進はもとより県勢各般にわたり格別のご支援とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、農業農村整備事業予算は、対前年度比 114.0%にあたる約 2,428 億円余の平成 25 年度概算要求が昨年 9 月に行われておりますが、先の衆議院議員選挙の結果、自民党を中心とする新たな政権が誕生し、本年早々には大型補正予算の編成や平成 25 年度予算の再編成が行われる見込みとなっております。

いずれにしましても、農地をフル活用するとともに水田汎用化など生産性を高め、競争力のある「攻めの農業」の展開や、「命を守り抜く」防災対策の推進等は引き続き重点的な取り組みが必要であり、農業農村整備事業の果たす役割が大いに期待されているところであります。

一方、本県においては、一昨年に策定した「香川県農業・農村基本計画」に基づき、県民が安心して暮らせる元気な農業・農村の実現を基本目標に、県民の期待に応える食の安定供給、産業として自立できる農業の実現、魅力ある農村の振興を 3 つの基本方針とし、厳しい財政事情の中ではありますが、事業の選択と集中をより一層徹底し、国の農業施策を踏まえ、各種施策を着実に実施することとしています。

当課としては、3 つの基本方針を展開する上で基礎となる「生産基盤の条件整備」を担っており、香川用水をはじめとする農業水利施設の適時的確な診断による施設の長寿命化を図る「基幹水利施設ストックマネジメント事業」、担い手の育成・確保や経営規模の拡大をはじめ、集落営農の推進や地域の特性を生かした農業を展開するための「農業生産基盤整備事業」などに積極的に取り組むこととしています。

とりわけ、ため池の整備は、本年度から始まる「第 10 次老朽ため池整備 5 か年計画」を作成し、引き続き計画的な整備に努めていきますが、一昨年の東日本大震災や将来発生が予測される東南海・南海巨大地震等を踏まえ、ため池の震災対策や小規模ため池の保全整備を最重要施策の一つに位置づけるとともに、市町が行うハザードマップ作成の支援や 10 万トン以上の大規模ため池の耐震診断調査に取り組んでいくこととしております。また、ため池の耐震化整備については、「ため池耐震化整備検討委員会」を設置し耐震診断結果の検証やため池の耐震性補強工法の検討などを専門家の意見を踏まえ、耐震化整備に取り組んでまいります。

さらには、昨年の 11 月県議会におきまして、ため池の整備に係る農家負担の軽減を図るよう見直しを行い、整備の進んでいない中小規模ため池の整備を促進するとともに、県土の安全・安心のための防災・減災対策を積極的に推進することとしておりますので、関係の皆様方のご理解とご協力をお願いします。

最後になりましたが、貴連合会の益々のご発展と会員皆様方のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



## 新年のご挨拶

香川県農政水産部農村整備課

課長 池田 正志

新年明けましておめでとうございます。

平成 25 年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃、大山香川県土地改良事業団体連合会長様はじめ、会員の皆様方には、本県の農業農村整備事業の推進に格別のご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

顧みますと昨年は、暮れの衆議院選挙、消費税増税を柱とした社会保障と税の一体改革関連法の成立、原発問題など、今後、私たちの生活に大きな影響を及ぼす契機となる 1 年であったと言えます。

現在、新しい内閣が昨年の暮れに発足したばかりですが、国の平成 25 年度予算は組み替えが行われる見通しであるとともに、大型の補正予算も編成されることとなっております。特に、農業生産基盤の整備を行う各種農業農村整備事業は、国の予算に大きく影響を受けることから、防災・減災や中山間地域の活性化、土地改良施設の長寿命化などの施策に必要な予算が期待されるところであります。

ご承知のとおり、農業農村では、所得の減少、担い手不足の深刻化、高齢化の進展、農山漁村の活力の低下等厳しい状況に直面し、食と農林漁業の再生は待ったなしの課題となっております。

特に、中山間地域では、耕作放棄地の増加と施設の老朽化が進み、農業生産のみならず中山間地域が有している農業生産活動を通じた水源の涵養や土砂崩壊防止、さらには美しい自然環境や伝統文化等の地域資源の保全・継承など、様々な多面的機能が失われる恐れがあります。

このようなことから、農業を中心とした地域の活性化に意欲のある地域を対象として、農業生産基盤と農村生活環境基盤を総合的・一体的に整備する「中山間地域総合整備事業」を推進することにより、中山間地域の活性化を図ってまいります。

また、当課では、本県農政の基本指針である「香川県農業・農村基本計画」の 3 つの基本方針の 1 つに位置付けられている「魅力ある農村の振興」を図るための施策を担っており、農業・農村が持つ多面的機能の維持を目指すこととしております。

具体的には、真に農村に根付いた協働活動を活性化させるため、農業者をはじめ、自治会などの多様な主体の参画を得て実施する農地や農業用施設、農業用水等の資源や農村環境の保全向上に向けた「共同活動」や老朽化する農地周りの農業用排水路等の長寿命化を図る「向上活動」を支援する「農地・水保全管理支払事業」、中山間地域において、耕作放棄地の発生を未然に防止し、多面的機能を維持するため「集落協定」に基づき継続的に行う農業生産活動を支援する「中山間地域等直接支払制度」の両施策の推進に、引き続き積極的に取り組んでまいります。

加えて、グリーン・ツーリズムの推進など、都市住民との交流促進を図るとともに、再生可能エネルギーの利用促進など、地域資源を活用した農業・農村の活性化に取り組んでまいりますので、関係の皆様方のご理解とご支援をお願いします。

最後になりましたが、貴連合会の益々のご発展と会員皆様方のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

## 平成 24 年度第 2 回監事会開催



去る 12 月 18 日、高松市番町の香川用水記念会館 5 階演習室において、平成 24 年度第 2 回監事会が開催された。

当日は、大山会長、山地常務理事の立会のもと、森川代表監事をはじめ、稲尾監事、菰渕監事が出席して平成 24 年度中間監査が行われ、予算執行状況及び財務状況について何れも適正に処理していることが認められた。

## 第 153 回理事会開催

### 平成 24 年度補正予算を承認

第 153 回理事会が 12 月 26 日、来賓として、川池農政水産部長、飯間土地改良課長、池田農村整備課長の出席のもと、高松市兵庫町の高松東急インにおいて開催された。

冒頭、大山会長より、去る 11 月 3 日に篠原静夫理事が秋の叙勲受章者として旭日単光章の榮譽に浴されたことのお祝いと、大型補正予算が見込まれるなどの農業農村整備事業を巡る情勢や災害支援の報告、さらに全国水土里ネットが「ふるさとの田んぼと水」をテーマに全国から募集した絵画コンクールで、本県から香川大学教育学部附属高松小学 5 年生の美馬由布子さんの「深い緑の中のたな田」が最高賞の農林水産大臣賞を受賞したことの報告があった。



続いて、来賓として出席された川池農政水産部長は、厳しい財政事情のなか、担い手のニーズや地域の特性を生かした生産基盤の整備、老朽化により機能低下が著しい農業水利施設の計画的な保全と保全管理体制の拡充、とりわけ、ため池の安全性の確保は利水者である農業者だけの問題ではなく、下流域の住民にとっても重要な関心事となっており、東南海・南海地震に備えて、老朽ため池の整備を進めるとともに、ソフト面での対策であるハザードマップの作成や、ため池の耐震診断に取り組むこととしておりますので、引き続き本県の農政にご協力をお願いしますと述べられた。

その後、大山会長が議長となり、平成 24 年度一般会計収支補正予算について審議され、原案どおり承認された。



## 平成 24 年度 換地計画実務研修会開催

去る 11 月 29 日、30 日の両日、綾歌郡綾川町の綾上農村環境改善センター、また、12 月 6 日、7 日、さぬき市役所において、平成 24 年度換地計画実務研修会を開催した。

この研修会は、本会の主催により、換地技術の強化をはじめ、換地事務の円滑な推進や関係土地改良区役職員の換地業務等に関する知識の向上を目的として毎年開催している。今年度は、綾上農村環境改善センターに 36 名、さぬき市役所に 44 名が参加し、熱心に受講された。

両会場とも開会にあたり、本会山地常務理事から農業農村整備事業の現状と出席者に対するお礼の挨拶があり、引き続き 2 日間にわたり、換地理論と交換分合、土地改良法の手続き、民法、法務行政の現状と土地改良登記令等による登記申請書、公共測量の手続き、人・農地プランと関連対策など 7 科目の研修が行われ、換地業務等に関する知識の向上に努められた。



11 月 29 日 開講式で挨拶する水土里ネット香川山地常務理事



『民法』を講義する高松法務局 高丸統括登記官  
(11 月 29 日 綾川町)



『換地理論』を講義する農政局 中村土地改良指導官  
(12 月 7 日 さぬき市)

### 会 と 催 し

開催月日	会 の 名 称	開催月日	会 の 名 称
1 月 13 日	平成 24 年度農地・水保全管理支払交付金第 5 回打合せ会 (高松市)	20 日	香川県農業再生協議会第 5 回総会 (高松市)
17 日	香川県農業会議常任会議員会議 (高松市)	〃	平成 24 年度第 9 回観音寺市地域担い手育成総合支援協議会幹事会(観音寺市)
18 日	第 2 回監事会 (高松市)	25 日	平成 24 年度香川県非補助土地改良事業等融資拡大連絡会 (高松市)
19 日	さぬき市土地改良区合併協議 (さぬき市)	26 日	第 153 回理事会 (高松市)
〃	平池土地改良区理事会 (高松市)	〃	新規就農者陶地区に係る人・農地プラン検討会 (綾川町)

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展 2012 受賞作品決定  
 ～農林水産大臣賞の美馬由布子さんが農政水産部長より祝福を受ける～

農林水産大臣賞

全国土地改良事業団体連合会と各都道府県土地改良事業団体連合会では、私たちの財産である農村の豊かな自然や美しい風景、歴史的な遺産や伝統などを守り、次世代へと引き継いでいくために、子どもたちに田



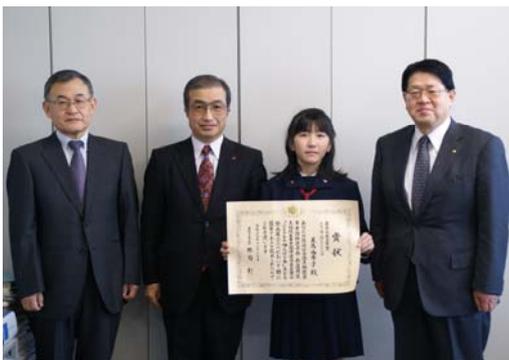
んぼや農村に関心をもってもらい、棚田や田んぼ、水路やため池による水の循環や環境保全への理解を促そうと全国の小学生や幼稚園・保育園児から作品を募集したところ、8,745点の応募があり、厳正な審査によって入賞作品23点、団体賞作品38点、入選作品92点<sup>ホー</sup>が決定し、12月15日には東京都品川区のO美術館で表彰式が行われた。



「深い緑の中のたな田」

本県からは、香川大学教育学部附属高松小学校5年生の美馬由布子さんの「深い緑の中のたな

田」が最高賞の農林水産大臣賞を受賞した。このほかにも5名の子供達が入選し、入賞作品等が東京の3会場で展示された。



また、12月20日には美馬由布子さんが父兄とともに香川県庁を訪れ、川池農政水産部長を表敬訪問し、本会の山地常務理事から紹介があった後、帰省途中の美しいたな田に魅せられたことなどについて和やかに懇談し、川池部長から記念品が手渡された。

謹んで新年のご挨拶を申し上げます

香川県土地改良事業団体連合会(水土里ネット香川)

会 長	大山 茂樹	理 事	村上 明秋	参事・事務局長	湊 敏好
副 会 長	組橋 啓輔	理 事	祐安 正	事務局次長 (兼)仲多度支所長	野瀬 康弘
常務理事	山地 孝士	理 事	栗田 隆義	事務局次長 (兼)企画指導課長	高尾 武司
理 事	十川 昭五	理 事	山本 貞二	総務課長 (兼)電算課長	大河 仁司
理 事	泉川 静雄	代表監事	森川 光典	調査設計課長 (兼)農業集落排水課長	鎌田 忠
理 事	三笠 輝彦	監 事	稲尾 正成	換地登記課長	福島 一順
理 事	篠原 静夫	監 事	菰渕 将鷹		
理 事	佐々木 勇				

ほか職員一同